

三十

廿三

誹風柳多留

十二編

1147
12



Handwritten notes in a grid format, likely a phonetic or linguistic study. The text is arranged in columns and rows, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The grid is approximately 10 columns wide and 10 rows high.

廿三



十三

廿三

廿丁及世七丁八
後刊本削除
他乙落失



12

ちよ〜〜〜の足まじり舞ハあま
 ねしおぼ〜友がおく〜せ〜
 ち神ふきぬ〜とかが〜を人あ
 くれと大ぬ〜〜〜〜
 さ〜〜い野〜と紅丁ら〜
 百出〜と〜人〜
 そ〜〜〜
 月車〜
 おい〜
 ナ〜
 山〜
 休ア〜
 車〜
 ちん〜
 何〜
 彼〜
 女〜
 六日〜

ちいばの妻もそれの母と入り
お出らふお女もふに二人
おついでおとすまへてお教へたま
て本年は先陣に二人、おまへは
おん〜誠だじり物くめらるる
その中見合せ〜ゆいといふ
おんを見せぬ人のおまへ、おのち
又まへ〜ひら〜おまへ
〜〜おまへ〜おまへ〜

はのけ〜と枝がひのたぬおまへ
おまへ〜おまへのおまへの
おまへ〜おまへ〜おまへ
おまへ〜おまへのおまへの
おまへ〜おまへのおまへの
おまへ〜おまへのおまへの
おまへ〜おまへのおまへの
おまへ〜おまへのおまへの
おまへ〜おまへのおまへの
おまへ〜おまへのおまへの

おしひのこしつとじすまらあし
久やかゝるしほしあふしあし
初まのまへちまてはつと海し
さしひのこしつとじすまらあし
ぼんごのまへちまてはつと海し
下徳とあつとじすまらあし
むくむとあつとじすまらあし
敷りや（目）あつとじすまらあし
髪並のりや（目）あつとじすまらあし

くのせのこあつとじすまらあし
あつとじすまらあし
祢ららんごらんぶえてあつとじすまらあし
や福とあつとじすまらあし
さしひのこしつとじすまらあし
飛り男びがたくあつとじすまらあし
あつとじすまらあし
後しむてしつとじすまらあし
あつとじすまらあし

から〜〜〜

茶師が茶師の森の具すての

〜〜〜

此〜〜〜

よ〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

年別〜〜〜

大〜〜〜

〜〜〜

大〜〜〜

〜〜〜

あ〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

あ〜〜〜

中絶と云ふは横の間に
板のやちちをひきよめし
ひきよめしはひきよめし
生解と云ふは中絶の
二十と云ふはひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし

長き事に入母事とは
ひきよめしはひきよめし
礼をうしひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし
ひきよめしはひきよめし

ゆきあり片の疾のちせりく
くんののそむきあふ
兼くやしあしてれとら
始を帝一はがくや
とら端くはま
大のむきふ
福あやあがく
あまのむら
お

初くはく
と月平ト
就り
高強
仲
部
ち
い
夕

井ノ口
11/1

とて舟の中へ病にかゝ中細云
て人湯へ相書とぐちハシ人
子人而は魚一打そ下甘す
知り切そく居るとちよと
をなまらし身かほちし根陣
わしけえハ多入酒と二日
ちよ白やこ入とらう
みほのちやどぐで
S...
お...
離入...
を...
は...
が...
ほ...
松...
田...
す...
す...

山小笠原実とて申すは 神代年
 らく申すは 神代年 乙が 乙日候
 海へ入る 海へ入る 海へ入る
 云葉とてか 云葉とてか 云葉とてか
 神の下 神の下 神の下
 海の中 海の中 海の中
 花と見ゆ 花と見ゆ 花と見ゆ
 昔と見ゆ 昔と見ゆ 昔と見ゆ

馬小笠原実とて申すは 神代年
 海へ入る 海へ入る 海へ入る
 女と見ゆ 女と見ゆ 女と見ゆ
 花と見ゆ 花と見ゆ 花と見ゆ
 龍舟の子 龍舟の子 龍舟の子
 松尾の子 松尾の子 松尾の子
 松尾の子 松尾の子 松尾の子
 松尾の子 松尾の子 松尾の子
 松尾の子 松尾の子 松尾の子
 松尾の子 松尾の子 松尾の子

何れもいふに似たりかきつら
かきつらての園一の池一りうら
古岸の葉を好むまに或者と
出らうとすらしこせらうと
らんふとらん魂とくちせし
小ざらうらうらんてんこ
まづはの肉、食とくちせし

酉二月十五日

吉例花角力合

権主 星運堂
洲助 薩秀堂

中坊のたきりーちるかきつら

あけらのお織がゆ房すゆぬ

あやまとゆほやゆ子のとで合

はらべこ入元とゆくハ様

とろりかきつらーいハまけのゆみ

元の知しこゆとーしんで

ゆいよのとしじーやしてふ人

若一ーゆらとあがきくいと

花生門 徳おれがゆべ

孫敏達 若

初康、吉

柳あ、石

橋本、井

柳あ、玉

橋本、和

初世、秋

あき、歌

病氣、子

いふくもこのぐあひをばはらふ

江戸のふらふらだりたるはらふ

けふ日かへおぼめのまがかり

略と捨てる命とをひきり

目一ツがふりあつてあまの

草物も内庭へはもかたをく

あつたあつたおぼろしき

非かぶせ中へはむき泣いて居る

素人のやせよきの肉とり

大岡の神より伊豆の鹿

こづつがふ意としてあまのこ

体はのそとをいかにたつもの

とつかうしてあまのこをいかに

とつたあまのこをいかに

あまのこをいかに

あまのこをいかに

あまのこをいかに

あまのこをいかに

あまのこをいかに

柳のまき

船布

言原、柳

橋本、一町

柳、即ち

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

全、雨

かゝるくぐさし柳もごぞく

牡丹、さし草

ふらぬらで燈ノあしきし花ははし

梅、木、五輪

まゆりしけらノ入りけしごらうがや

柳、文、介

わしとぐゆとと母の交くゆま

登、文、志

下母がさうらうぐはる命がふくゆ

志、花、物

まゆりしけらノ入りけしごらうがや

梅、木、五輪

下母がさうらうぐはる命がふくゆ

志、花、物

まゆりしけらノ入りけしごらうがや

梅、木、五輪

下母がさうらうぐはる命がふくゆ

志、花、物

全ノ



#111
11/1